

令和4年度
第3回いわき市地域自立支援協議会
議事要旨

いわき市保健福祉部
障がい福祉課

会 議 名		令和4年度第3回いわき市地域自立支援協議会		
日	時	令和5年3月23日（木） 午前10時00分から午前11時30分		会 場
				いわき市役所 第8会議室
出席委員	【構成区分】	(氏名)	(所属・職名)	
	障がい者福祉団体	吉江 路子 吉村 真澄 渡辺 さゆり 古館 信義 石井 静子 長谷川 勇三	いわき市盲人福祉協会女性部会 会計 いわき市手をつなぐ育成会 監事 いわき地区自閉症児・者親の会 会長 いわき市身体障害者福祉協会 会長 いわき聴力障害者会 副会長 いわき市腎臓病患者友の会 会長	
	障がい者福祉施設等	長谷川 秀雄 鍛冶 奈保子 古川 敬【会長】	いわき地区障がい者福祉連絡協議会 会長 (福)いわき福音協会エデンの家 作業療法士 (福)育成会 理事	
	障がい者関係機関	奥貫 秀則 佐藤 香 小野 真弓	いわき公共職業安定所 所長 いわき障害者就業・生活支援センター 所長 (福)いわき市社会福祉協議会生活支援課 主査	
	市民代表	渡辺 成子	いわき市ボランティア連絡協議会	
欠席委員	学識関係者	三好 圭 吉沢 和朗 志賀 忠夫	医療創生大学 健康医療科学部 准教授 独立行政法人国立病院機構いわき病院（内科） 公益財団法人磐城済世会舞子浜病院（精神科）	
	障がい者福祉団体 障がい者関係機関	谷平 耀宗 鈴木 テルコ 菅野 美恵子 柳沼 哲	(福)誠心会 理事兼事務局長 社会福祉法人希望の杜福祉会 福島県立いわき支援学校 校長 福島県立平支援学校 校長	
事務局	いわき市	山廻邊 直人	障がい福祉課 課長	
		佐藤 和幸	同 課長補佐	
		寺島 文俊	同 支援係長	
		佐藤 公威	同 事業係長	
		吉田 裕史	同 主査	
		永井 修平	同 事務主任	
		齊藤 将智	同 事務主任	
		若林 礼佳	同 事務主任	
	基幹相談支援センター	園部 義博	いわき基幹相談支援センター所長	
		時實 祐志	いわき基幹相談支援センター	
		浄土 洋輔	同	
		鈴木 洋	同	
	地域生活支援部会	草野 美保	地域生活支援コーディネーター	
	障がい者相談支援センター	白土 修	いわき障がい者相談支援センター	
		永井 正樹	同	

配 付 資 料	(1) 次第 (2) 席次表 (3) 令和４年度第３回いわき市地域自立支援協議会資料 (4) 障害者虐待防止法リーフレット
------------------	--

議事要旨

- 1 開会
- 2 委員及び事務局紹介
- 3 会長挨拶
- 4 報告事項

いわき市地域自立支援協議会設置要綱第6条に基づき、古川会長が議長を務めた。
 (『5 協議事項』、『6 その他』も同様)

議事	発言者	内容
(1) 令和4年度 専門部会等の 評価と課題に ついて	事務局 A委員	配布資料P3～14に基づき、令和4年度における各専門部会の活動内容、評価と次年度への課題を報告。 まず一つ目に先日、地域包括ケア推進会議に、障連協（いわき地区障がい者福祉連絡協議会）として参加したが、高齢福祉・障がい福祉があまり連携せずに、それぞれで進められている印象を受けた。地域包括ケアと言っているのだから、包括的かつ横断的な支援体制の整備を地域でしていくことが望ましいと思う。 小中学生に講師派遣をして福祉に関心を持ってもらおうという取り組みをしており、そこでは「地域共生社会」と謳われていたが、高齢者、障がい者への理解を深めると書いてあったが、内容は高齢介護についてのものばかりであった。障がい分野がマイナーなものになっている気がするため、もっと連携を進めていくべきだと思う。 福祉分野は人材不足が問題視されているため、若い世代に興味関心を持ってもらうためにも学校への講師派遣については、高齢福祉分野だけでなく、障がい福祉分野のことも知ってもらう取組みを本格的に行う必要があるのではないか。そのためにも行政には学校への講師派遣（障がい分野）を検討してもらい、当事者や障がい福祉サービス事業所の講師派遣について、橋渡しをしてもらいたいと思う。 次に、やはり「仕事がない」という問題についてであるが、就労系の事業所は不景気ということもあり、段々と仕事が減ってきている状況である。工賃アップの取り組みだけでなく、仕事の開拓をしていてもらいたい。他分野との連携を行い、仕事開拓のためのアクションを起こすことを課題としてあげたい。

議事	発言者	内容
	事務局	小学生等、未来を担う世代に障がい福祉への興味関心を持ってもらうことは重要である。障連協との意見交換会において、障がい福祉分野の講師派遣について協力していただきながら、出前講座を検討していきたい。
	会長	少し話は逸れるかもしれないが、県の社会福祉協議会より毎年依頼されて、市内中学校に授業に行く機会が提供されている。高齢分野、障がい分野、児童分野の授業を実施している。授業後のアンケート結果をみると「障がい分野について初めて知った」という子どもさんが圧倒的に多い状況であった。しかし反面「興味を持った」という意見もあり、「将来、福祉の仕事に就いてみたい」との意見もあるため、直接、こういった取り組みをしていくことも大変重要かと思う。これは県社協の取り組みではあるが、市内中学校に対して行われているものとして情報提供しておきたい。
	事務局	A委員の一つ目の意見については、広く人材育成の取り組みの考えであると思うが、若い世代への働きかけとしては、市として出前講座にて小学生から高校生に向けて障がい福祉分野への興味関心をもってもらうことを目的として、基幹相談支援センターや障がい者相談支援センターにも協力してもらいながら、啓発活動を実施している。 それ以外に、具体的な職業としての興味関心を持ってもらう取り組みはまだまだ足りていないとは思いますが、地域生活支援部会にて人材育成について検討を重ねているところである。
	B委員	「出前講座」や「教える」という課題が聞かれたが、若い世代を育てる観点から、子ども達同士の交流にも目を向けてもらいたい。実際に平支援学校や平四小中心に子ども達同士の交流という学びの場がもうけられており、他の地域の学校にも広がりを見せている。教える立場での教育も大切だが、偏見差別を作らないということから、同じ場で学べるという機会の提供の強化をしてほしい。 (⇒次項へ)

議事	発言者	内容
	事務局	(⇒前項より) また保育園等への障がいのある子どもの通園も増えており、先生方も一生懸命に関りを持ってくれているのが伺える。しかし子ども達の年齢があがるに伴い「障がいのある子のお世話をする」という形での育ちが見えてくるのが現状である。大事なことはあるが、そうなった際に、保育にあたる先生方がどのような声掛けをしていくのが良いのか等、今後検討を強化していく必要性を感じる。 A委員の一つ目の人材育成に関しては、地域生活支援部会のフォローアップ研修において、福祉業界の魅力や職責等について発信する機会をもうけている。若い世代への発信ではないが、実際に現場で働いている人向けに今後の仕事への定着や、やりがいにつながる取組みを実施している。 またこの取組みは、県の自立支援協議会の人材育成部会の委員である方に講師を担ってもらうだけでなく、市内社会福祉法人や障がい福祉サービス事業所の職員にも講師やファシリテーターを務めてもらうなど、市内の障がい福祉サービス提供事業所や法人の垣根を超えた人材育成、定着に関わる取組みを実施できたと考えている。今後もA委員の意見を参考に取組みを強化して参りたい。
	会長	A委員の二つ目の「仕事が減っている」との意見について、何か事務局の方で取組みの状況や今後の予定等、現状を踏まえた意見はないか。 ⇒意見なし 意見が出ないため、「就業や作業等について」何らかの回答を事務局からもらうこととしたい。
	事務局より	⇒今回のA委員からの質問を受け事務局からの回答を議事要旨に記載とした。 (⇒次項へ)

議事	発言者	内容
(2) 第5次いわき市障がい者計画等に係るアンケート調査について		(⇒前項より) 【障がい福祉課からの回答】 障がい福祉課としては、優先調達制度に基づき物品や役務の調達について市役所の各部署に対して、事業所からの調達を優先して行うよう働きかけております。 この他、「HAND MADE IWAKI」の冊子を毎年度作成し、事業所の商品や役務に関する情報発信を行っております。さらに、情報発信を強化するため、市の公式Instagramを活用し、「HAND MADE IWAKI」の掲載事業所で撮影させてもらった商品の写真をInstagramにより発信する取り組みを始めております。 また、新たな取り組みとして、市役所職員が使用する情報ポータル（パソコン）の掲示板に商品情報等を掲載することも行いました。例えば、3月の人事異動の時期に名刺を作成している事業所情報を掲載し、名刺作成の発注が増えた事例もあります。
	事務局 (サーベイリサーチセンター)	配布資料P15～21に基づき、第5次いわき市障がい者計画等に係るアンケート調査の調査結果概要を説明。
	会長	アンケート結果を踏まえて計画策定をしていくこととなるが、何か質問や意見はあるか。
	A委員	P. 20図表13の見方が少し分かりづらい。見方を説明して欲しい。
	事務局	全体178は回答した人数であり、横に連なる数値は回答した人の割合である。 縦軸は回答者数だが、合計人数が一致しないのは、未回答の人数を含めていないからである。

議事	発言者	内容
(3) 障がい者虐待防止に向けた取組みについて	事務局	配布資料P 22～24に基づき、障がい者虐待防止に向けた取組みを説明。
	C 委員	養護者の定義については？親や家族のみで良いのか。ヘルパー等に関してはどうか。
	事務局	お見込のとおり養護者に関しては、家族等、養護する立場にある人のことである。ヘルパー等からの虐待については施設従事者からの虐待にあたる。
(4) 個別事例経過報告について	事務局	配布資料P 25～27に基づき、個別事例経過報告について説明。
	会長	前回の個別事例報告に引き続き、情報共有をしているところであるが、小地域ケア会議については、実施するにあたり、今後、社会福祉法人を会議に加え、拠点等の評価や意見交換を実施していきたいとのことである。 法人内だけでなく、法人間の連携がコロナ禍ということもあって取りづらい状況であったが、今後は連携を取っていければと思うのだが、A委員どうか。
	A 委員	この方のケースについて感じることだが、入所施設、グループホームという選択肢しかなかったのかな、と思ってしまう。地域に出る動きを考える必要性もあるのではないかと。入所施設はどこもいっぱいであり、なかなか入れる場所も見つからなかったため、他の市町村の施設という選択になったのだろうが、地域で支える動き、一人暮らしを支える体制、仕組みを作っていく必要があると感じた。
	会長	今後については、増々、社会福祉法人としての立場、NPO法人等の他の法人の立場の方々においても、これまでできなかったことを連携しながら日頃の業務にあたってもらえればと思う。

議事	発言者	内容
(5) 令和5年度 いわき市地域 自立支援協議 会下部組織の 構成等につ いて	事務局 会長	配布資料P28に基づき、令和5年度いわき市地域自立支援協議会下部組織の構成等について説明。 意見がないようなので、令和5年度より、当事者部会が設置されるということで、こちらは予定通りとなる。

4 その他

議事	発言者	内容
(1) 医療的ケア 児ワーキング グループの開 催について (情報提供)	事務局	児童療育支援部会の報告にて説明したが、医療的ケア児の支援体制について、本年3月1日に小児科医や重症心身障がい児のデイサービスの代表、こども支援課等をメンバーとしてワーキンググループを設置した。 本格稼働は令和5年度を予定しているが、その中で医療・保健・福祉の一層の連携の強化策であったり、コーディネーターの配置の検討など、ライフステージに沿った支援体制の整備について、検討の場をもうけたため、情報提供をさせていただく。
(2) 次回の地域 自立支援協議 会開催予定に ついて	事務局	令和5年度第1回自立支援協議会については、令和5年5月中旬頃の開催を予定している。開催場所等や日時が近付いたら案内文書にて周知を図ることとする。

5 閉会